

食生活に求めるもの

イー・ウーマン調査「働く女性が食生活に求めるもの」
<http://www.ewoman.co.jp/>

2000年の雪印乳業食中毒事件、2001年の日本国内での狂牛病発生問題、2002年の中国産冷凍ほうれん草の残留農薬基準値違反など、この2～3年で私たちの食卓を脅かすような出来事が相次いでいる。このところ大きな問題は起きてはいないが、スマートコンシューマー達は現在の食の安全性について、どのように感じているのだろうか。

■9割が食の安全性に関心あり

食の安全性に「非常に関心がある」人は29%、「関心がある」人は59%と、大半が食の安全性に関心を持っている(グラフ1)。不安に感じている点を上位3つまで上げてもらったところ、過半数の人が3位以内に「残留農薬」「食品添加物」を上げ、続いて4割弱が「遺伝子組み換え食品」「環境汚染物質・環境ホルモン」を上げていた(グラフ2)。残留農薬や食品添加物に対する不安が強いいため、実際の購買行動としても有機栽培や無農薬・減農薬などの農業に配慮した野菜を買うことが多い人は全体の5割(グラフ3)、無添加食品や自然食品などの添加物に配慮した食品を買うことが多い人も6割近くに達している(グラフ4)。農業にしても添加物にしても、気にしていない人は5%と極めて少ない。10年以上前から無農薬・低農薬にこだわって宅配事業を始めている会社や自然食品店に加え、最近ではユニクロもこの分野に参集し注目を集めているが、今後、このような安全性に配慮した食品はますます求められていくと考えられる。

■インスタント食品を食べるときには……

とはいえ、全ての食事を安全性にこだわったものに出来ないのが、忙しいスマートコンシューマーの辛いところ。食は健康を維持する基本と心得ながらも、忙しいときには加工食品や冷凍食品、テイクアウトのお惣菜にお世話になることもある。7割程度の人が「冷凍食品」「レトルト食品」「デパートやスーパーのお惣菜」を利用していた(グラフ5)。また、意識としても「健康によい食事をしたいが、つつい手軽なもので済ませてしまう」という割合は半数近くの45%(あてはまる:15%、まああてはまる:30%)であり、日ごろの苦惱振りがうかがえる。しかしながら、単純にそのままインスタント食品などを食べるのではなく、「加工食品を利用するときは、野菜を加えるなどなるべくひと手間かけている」と回答した人は69%であった(あてはまる:27%、まああてはまる:42%)。そのため「安全性が高く、健康に良い食品が手軽に利用できるなら、すぐ利用したい」と考える人は84%(そう思う:47%、まあそう思う:37%)とかなり高い割合に達した。

■食へのこだわりと悩み

彼女達の食へのこだわりは「なるべく野菜を多く取り入れる」「旬のものを食べる」「バランスよく色々な食品を食べる」といった食の組み立て方から始まって、「家族みんな楽しく食べる」「子供にはなるべく手作りのものを食べさせる」という家族への配慮など様々である。その一方で、「手作りの食事が良いのはわかっているが、働いているのでたまにしかできない」「無農薬野菜や自然食品は値段が高い」「子供の給食の安全性が気になる」など、現実に直面する悩みも多く抱えている。

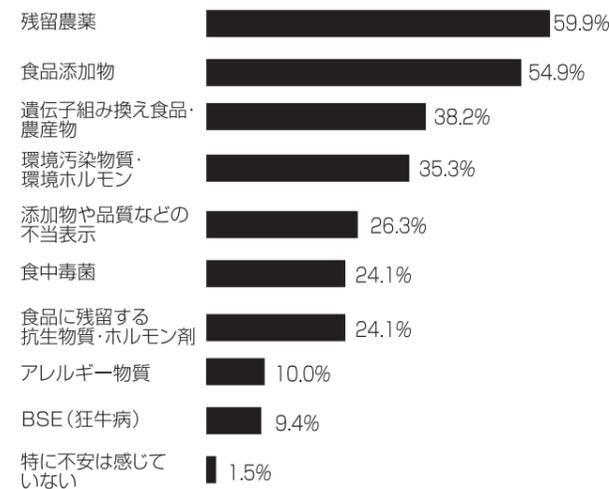
「食事」はカラダを作り、健康を維持する根幹をなすものである。また、それだけではなく楽しくおいしく食することで、精神的なゆとりや落ち着きを得ることも出来る。少しでも早く、ほんの少しでも多く、安心して食を楽しむ機会が増えることを切実に望んでいる姿が垣間見られた。

● 食の安全性への関心 <グラフ1>

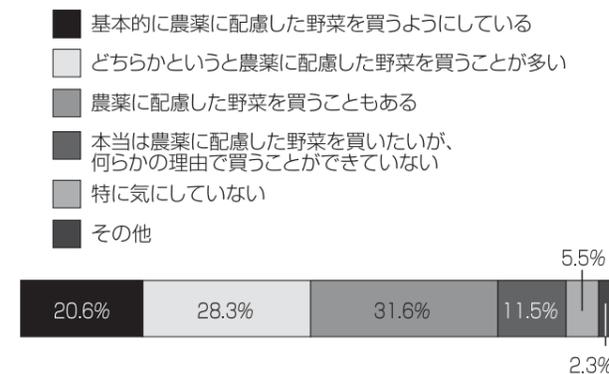


● 食で不安に感じる点 <グラフ2>

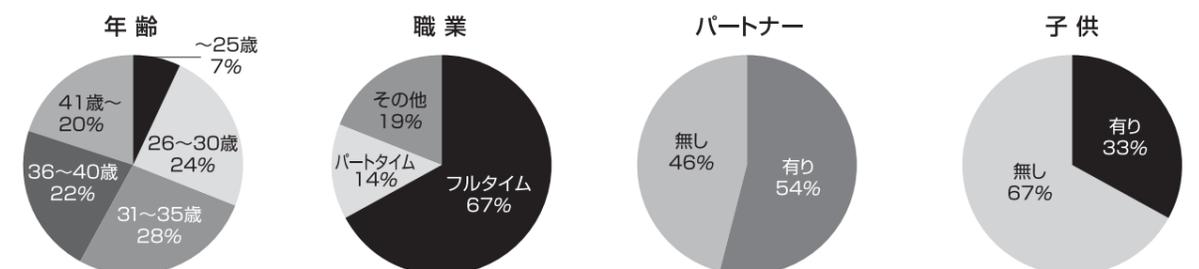
(食の安全性に関心がある人 689名中)



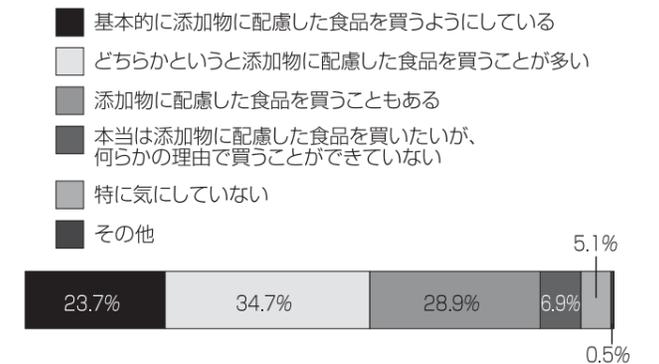
● 農業に配慮した野菜(有機栽培・無農薬・低農薬など)の購入状況 <グラフ3>



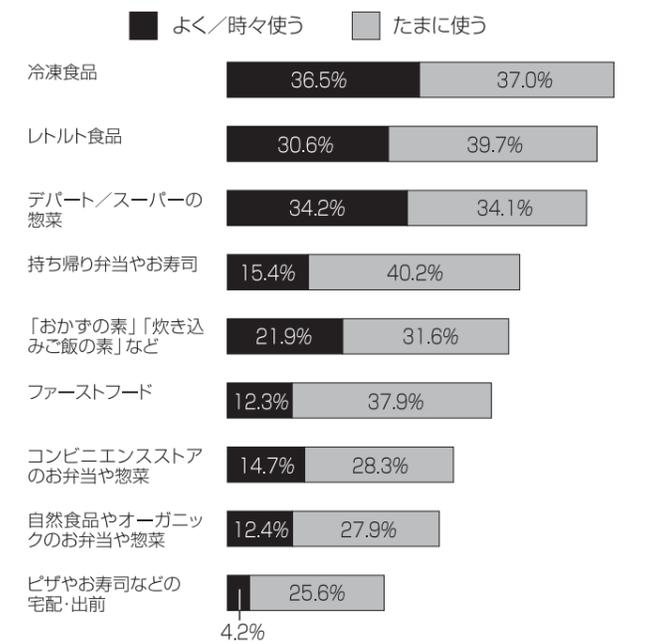
LEADERS DATA



● 添加物に配慮した食品の購入状況 <グラフ4>



● インスタント食品などの利用状況 <グラフ5>



<調査概要>

調査実施:2003年7月24日~28日
 調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
 対象:イー・ウーマンリーダーズ
 有効回答者数:781名